

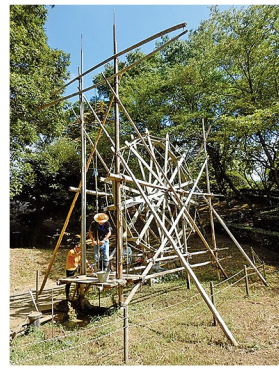
受け継ぎたい  
国の重要無形民俗文化財指定

# 上総掘り

小学生向けの環境  
教育用図書『なるほど  
水と上総掘り』抜粋



重機も燃料も使わず、主に土に還る道具と人力のみで深井戸を掘削する工巧な職人技。今も災害時対策や途上国への国際協力などに先人の英知が役立っています。



上総掘りは、千葉県君津市の小糸川流域や小櫃川流域で文政年間（1818〜1830年）に開発されました。農業用水や飲料水の確保に利用され、明治20年（1887年）頃に技術的に完成しました。

## 上総掘りに関わる人々

### 池田久蔵（いけだきゆうぞう）

池田久蔵（君津市糠田）は文化14年（1817年）に井戸を掘る仕事を始めました。当時は鉄棒の先に先端が2つに割れた金具をつけたものを使い、約36mの井戸を掘りました。

### 池田徳蔵（いけだとくぞう）

樫棒による掘削を始めた、池田久吉の助手として井戸掘り業を営んだ池田徳蔵は、明治19年に竹ヒゴの先に鉄管を付けて井戸を掘りました。

### 大村安之助（おおむらやすのすけ）

大村安之助（君津市俵田）は、明治12・13年頃に東京千住の⑥組定兵衛から鉄棒式の井戸掘り技術を習いました。その後、鉄棒、樫棒、竹ヒゴへと改良をして池田徳蔵などと同時期に活躍しました。

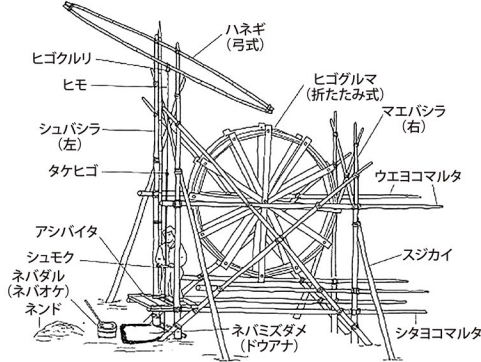


大村安之助（右）

### 石井峯次郎（いしいみねじろう）



石井峯次郎（君津市上）は、「ハネギ」「揚げ足場」などを発明し、上総掘りの完成に大きく貢献しました。明治・大正・昭和と各時代を上総掘りと共に歩んだ職人で、その足跡は鹿児島県での温泉掘りや中国や台湾にも及んでいます。



## 技術の移り変わり

### 鉄棒式（てっぽうしき）

19世紀初めには、各地で鉄棒による井戸掘りが行われていました。当時は重い鉄棒をつないで突き下ろすために、高いやぐらと多くの人手が必要で、深さも限界がありました。鉄棒で掘られた井戸の深さは約36mに達しました。

### 樫棒式（かしぼうしき）

明治15年に樫棒式が登場し、約100mの深さまで掘られました。

### 竹ヒゴ式（たけびごしき）

明治19年には竹ヒゴの先に鉄管を付けて掘る方式が発明され、約500mの深さまで掘ることができるようになりました。

つづく

小学生向けの環境教育用図書  
『なるほど水と上総掘り』

市役所1階総合窓口  
販売場所 各行政センター  
久留里城址資料館  
1冊 600円

マンガになって  
読みやすい

君津市役所 環境保全課 環境施策係  
君津市久保2-13-1 ☎0439(56)1243